



<https://twitter.com/fctokyoofficial>



<http://line.me/ti/p/@fctokyo>



<https://www.instagram.com/fctokyoofficial>



<https://www.tiktok.com/@tokyodorompa>



<https://www.youtube.com/user/fctokyochannel>



<https://www.facebook.com/fctokyo>

<https://www.fctokyo.co.jp>





東京が熱狂

ごあいさつ

2022シーズンのFC東京への応援、声援、誠にありがとうございました。年間を通じてサポートをいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

2022シーズンは、J1リーグ14勝7分13敗で6位、Jリーグヴァンカップグループステージ敗退、天皇杯3回戦敗退となりました。結果としては満足していませんが、アルベル監督のもとで、変革と基礎固めの1年であったことを鑑みますと、得ることも多く積み上げることができた一年だったと感じております。

2022シーズンから、FC東京は、MIXIグループに参画し、新しい経営体制にてリスタートいたしました。MIXIグループは、スポーツに関する事業に取り組んでおり、そこで培われたノウハウをFC東京に注入していくことができるようになりました。私を含め10名以上のスタッフがMIXIから東京に加わり、もともといたスタッフとともに、協力しながら運営する一年となりました。この一年、みなさまに見えるものも見えないものも含めて様々な変革に取り組みましたが、その中から2つご紹介したいと思います。

1つ目はフットボール部門での取り組みです。ここでの主眼は、FC東京のサッカースタイルをどのように確立し、またそれを継続していくかということにあります。監督によってめざすサッカーが右に左に行ったり来たりしてしまうと、選手やスタッフが、もしくはアカデミーが、それまで継続し積み上げてきたものが毎回ゼロリセットになってしまいます。強化部と議論しながら、やるべきことを整理し着手しました。アルベル監督を招聘し、FC東京のサッカースタイルの土台づくりを彼に託しました。そして、スタッフと体制を充実させ、編成、チームパフォーマンス、トップチームとアカデミーの連携等について対応力を強化しています。これらの取り組みを進めて、来シーズン以降も継続してFC東京のフットボールスタイルの確立にチャレンジします。

2つ目は観戦体験の向上です。もちろん、最も重要なのはピッチ上の試合そのものであり、サッカーで魅せ、勝利をお届けすることであることは間違いありません。ただ、その試合をハイライトするためにも、スタジアムで過ごす1日の体験全体をより良いものにしていくことも重要です。その内容によって新しいファン・サポーターも増えていく可能性を秘めています。2022シーズンは、いろいろと挑戦した一年となりました。花火や照明、DJによる音楽等演出面をアップデートしました。恐らくJリーグで最も格好いい(と思っています)選手紹介動画も磨きこんでいます。味の素スタジアムでは、10年ぶりの花火(FIREWORKS NIGHT)も復活、いつもと違う雰囲気や盛り上がりを楽しむという意味で国立競技場での開催も実施いたしました。スケートボードの堀米雄斗選手を招くなどMIXIグループだからできることもありました。最終節には、飛田給駅からのスタジアム通りを歩行者天国にする「青赤ストリート」も、調布市をはじめとする関係各所の協力によって実現しました。青赤ストリートは、Jリーグからも褒めの言葉をいただいた他、ファン・サポーターからも「今年は楽しかった」とのお声をいただくことがあり、やってみてよかったと大変嬉しく思っております。来シーズンもこのような取り組みは継続していきますので、これらの話をネタにしてみなさまの周りの方々をお誘いの上、スタジアムまでお越しいただければと思います。

改めまして、2022シーズンの応援ありがとうございました。
2023シーズンのFC東京もよろしくお願ひいたします。



東京フットボールクラブ株式会社
代表取締役社長 **川岸 滋也**

会社概要

会社名 東京フットボールクラブ株式会社 TOKYO FOOTBALL CLUB Co., Ltd.	所在地 〔調布事務所〕 〒182-0034 東京都調布市 下石原1-2-3 TSOビル 【TEL】042-444-2630	[深川グラウンド] 〒135-0003 東京都江東区猿江2-15-10	[小平グラウンド] 〒187-0001 小平市大沼町3-14-1 東京ガス武蔵野苑内
創立 1998年10月1日(都民の日)	資本金 1,762,000,000円 (2023年1月31日時点)	エンブレム 	
主な事業 1. プロサッカーチーム「FC東京」(1999年よりJリーグディビジョン2に加盟)の運営 2. サッカースクールおよびサッカーの普及活動 3. チームのオリジナルグッズの製作・販売			

FC東京のミッション

- FC東京は首都・東京をホームタウンとして、「スポーツの力」を東京中に、そして日本中に届け、日本を代表するクラブを目指します。
- 1 フットボールを中心に、東京のスポーツ人口の拡大に寄与し、誰もが日常的にスポーツに親しみ、楽しむことのできる社会を実現していきます。
 - 2 スポーツの魅力の人々に伝え、その心を動かすことによって、一人一人の毎日が少しずつ豊かに彩られる世の中を目指していきます。
 - 3 クラブが発信するスポーツの魅力が、人と人、想いと想いを繋ぐ媒介となり、人や地域のネットワークに新たな連鎖を生み出し、コミュニティのさらなる発展に寄与していきます。
 - 4 社会や地域と連携・協力を図り、未来の担い手である青少年たちがスポーツを通じてその可能性を広げることができる世界を創造していきます。

バリュー

最前線

仕掛ければ、なにかが起きる。
首都・東京の名を背負うに相応しいクラブであるためにFC東京は常に自ら動き、仕掛けていくことを意識します。
能動的に動き、新しい道を切り拓く。人とアイデアが集うこの東京から、大きなエネルギーを放ちます。

多様性

歴史と近未来が隣接し、伝統文化と最新テクノロジーが共存する東京。
全国各地、そして世界各地から人々が行き交うクロスロード。
その東京を舞台に、FC東京は多様性を誇るクラブであり続けます。
先入観にとらわれず様々な分野から卓越したものを集め、その化学反応によって、あっと驚くエンターテインメントを生み出します。

クリエイティビティ

変容する未来にも、トップランナーであるために。
既存概念にとらわれない発想力で、FC東京は進化を続けます。
リスクを恐れず、批判を恐れず、大胆に新しいことを試み続けること。
そのピッチの上で、誰も見たことのないものが生まれるように。

可能性

人口減少が続く日本にあって、東京は年少人口が増え続けている数少ない地域のひとつです。
休むことなく成長を続ける東京。その潜在力は無限大。
常に新しい才能が生まれ、首都を牽引する原動力となっていく。
FC東京もまた、現状に満足することなく無限の未来を模索します。
明日の担い手たちが夢を見続けられる世の中のために。

クラブの歴史

- 1935 前身である東京ガスフットボールクラブ創部。
- 1986 東京都リーグより関東リーグに昇格。
- 1991 全国地域リーグ決勝大会で優勝。JSL2部へ昇格を果たす。
- 1992 JFLに加入。
- 1997 天皇杯でリーグ勢を3連破し、準決勝へ進出。
- 1998 JFL念願の初優勝を飾る。
Jリーグディビジョン2 (J2) に参入決定。東京フットボールクラブ株式会社を設立し、東京初のJリーグクラブが誕生。
- 1999 ヤマザキナビスコカップベスト4進出。
J2リーグでは2位の成績で、1年でJ1昇格を決める。
- 2000 J1初めてのシーズン。1stステージ6位、2ndステージ8位、総合7位。
- 2001 東京スタジアム(現味の素スタジアム)開業。
- 2004 ヤマザキナビスコカップで決勝に進出、浦和レッズにPK戦の末勝利し、念願のクラブ初タイトルを獲得。
- 2008 クラブ創設10周年を迎える。第32節まで優勝の可能性を残すも、J1リーグ6位でシーズン終了。ヤマザキナビスコカップベスト8、天皇杯ベスト4。
- 2009 ヤマザキナビスコカップで決勝に進出、川崎フロンターレに勝利し、クラブ2つ目のタイトルを獲得。チームマスコット「東京ドロバシ」が登場。
- 2010 J1リーグで16位となりJ2降格。「2010 Jリーグアウォーズ」の最優秀育成クラブ賞を受賞。
- 2011 J2リーグで優勝、1年でのJ1リーグ復帰。第91回天皇杯で初優勝、AFCチャンピオンズリーグ(ACL)出場権獲得。
- 2012 FUJI XEROX SUPER CUP 2012に初出場。ACLラウンド16に進出。J1リーグ10位。
- 2014 J1リーグ9位。リーグ戦においてクラブ新記録である14試合無敗を達成。
- 2015 2ステージ制の導入。J1リーグ1stステージ2位、2ndステージ6位。年間4位。ヤマザキナビスコカップベスト8、天皇杯ベスト8、ACLプレーオフ出場権を獲得。
- 2016 ACLラウンド16進出。J1リーグ1stステージ9位、2ndステージ9位、年間9位。ルヴァンカップベスト4、天皇杯ベスト8、FC東京U-23を編成。J3リーグ10位。
- 2017 J1リーグ13位、J3リーグ11位、ルヴァンカップベスト8、天皇杯2回戦敗退。「2017 Jリーグアウォーズ」最優秀育成クラブ賞、フェアプレー賞を受賞。
- 2018 J1リーグ6位、J3リーグ14位、ルヴァンカップグループステージ敗退、天皇杯ラウンド16敗退。「2018 Jリーグフェアプレー賞」をJ1リーグ、J3リーグで受賞。
- 2019 J1リーグ2位、J3リーグ16位、ルヴァンカップ 準々決勝進出、天皇杯3回戦敗退。2019 JリーグアウォーズにてFC東京が「フェアプレー賞高円宮杯」を、FC東京U-23が「フェアプレー賞(J3)」を受賞。
- 2020 YBCルヴァンカップ決勝にて柏レイソルに勝利し、11年ぶり3度目の優勝を果たす。J1リーグ6位、ACLラウンド16進出。
- 2021 J1リーグ9位、ルヴァンカップベスト4、天皇杯2回戦敗退。
- 2022 J1リーグ6位、ルヴァンカップグループステージ敗退、天皇杯3回戦敗退

2022 順位・戦績

2022 順位表							
順位	チーム名	勝点	勝	分	敗	得点	失点
1	横浜F・マリノス	68	20	8	6	70	35
2	川崎フロンターレ	66	20	6	8	65	42
3	サンフレッチェ広島	55	15	10	9	52	41
4	鹿島アントラーズ	52	13	13	8	47	42
5	セレッソ大阪	51	13	12	9	46	40
6	FC東京	49	14	7	13	46	43
7	柏レイソル	47	13	8	13	43	44
8	名古屋グランパス	46	11	13	10	30	35
9	浦和レッズ	45	10	15	9	48	39
10	北海道コンサドーレ札幌	45	11	12	11	45	55
11	ザガン鳥栖	42	9	15	10	45	44
12	湘南ベルマーレ	41	10	11	13	31	39
13	ヴィッセル神戸	40	11	7	16	35	41
14	アビス福岡	38	9	11	14	29	38
15	ガンバ大阪	37	9	10	15	33	44
16	京都サンガF.C.	36	8	12	14	30	38
17	清水エスパルス	33	7	12	15	44	54
18	ジュビロ磐田	30	6	12	16	32	57

※下位2チームがJ2リーグに降格
※2023シーズンよりアルビレックス新潟、横浜FCがJ1リーグ昇格

2022 J.LEAGUE Levain CUP 戦績表			
開催日	対戦相手	スコア	会場
【グループステージ(Dグループ)】			
第1節 3/15(火)	ジュビロ磐田	△0-0	味の素スタジアム
第2節 3/2(水)	アビス福岡	●0-1	ベスト電器スタジアム
第3節 3/26(土)	湘南ベルマーレ	○2-1	味の素スタジアム
第4節 4/13(水)	湘南ベルマーレ	●1-2	レモンガススタジアム平塚
第5節 4/23(土)	ジュビロ磐田	●1-2	ヤマハスタジアム
第6節 5/18(水)	アビス福岡	△0-0	味の素スタジアム

2022 TOPICS

01 TOPICS

長友佑都選手フィールドプレーヤーとしては初のW杯4大会連続出場



02 TOPICS

アルベル プッチ オルトネダ監督就任



03 TOPICS

クラブ15年ぶりの高卒ルーキー開幕スタメンデビュー



04 TOPICS

クラブJ1リーグ通算1000ゴール

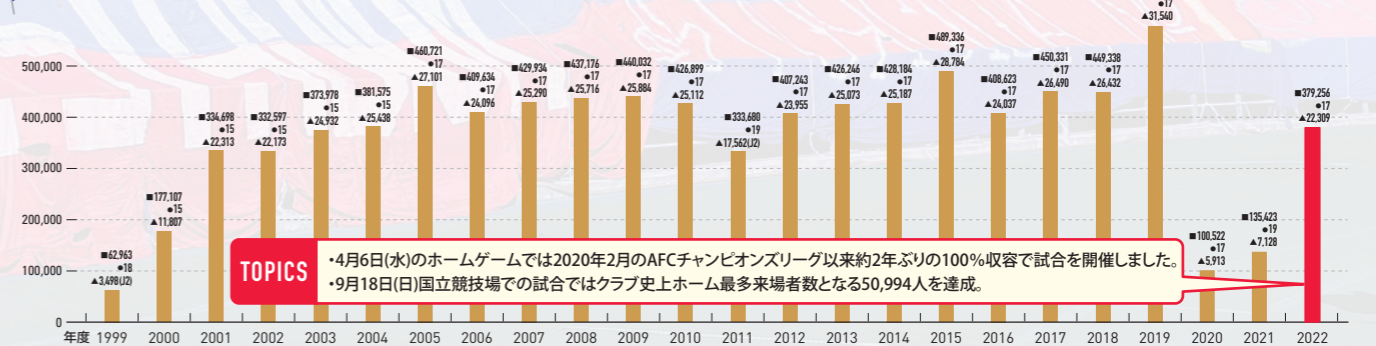


05 TOPICS

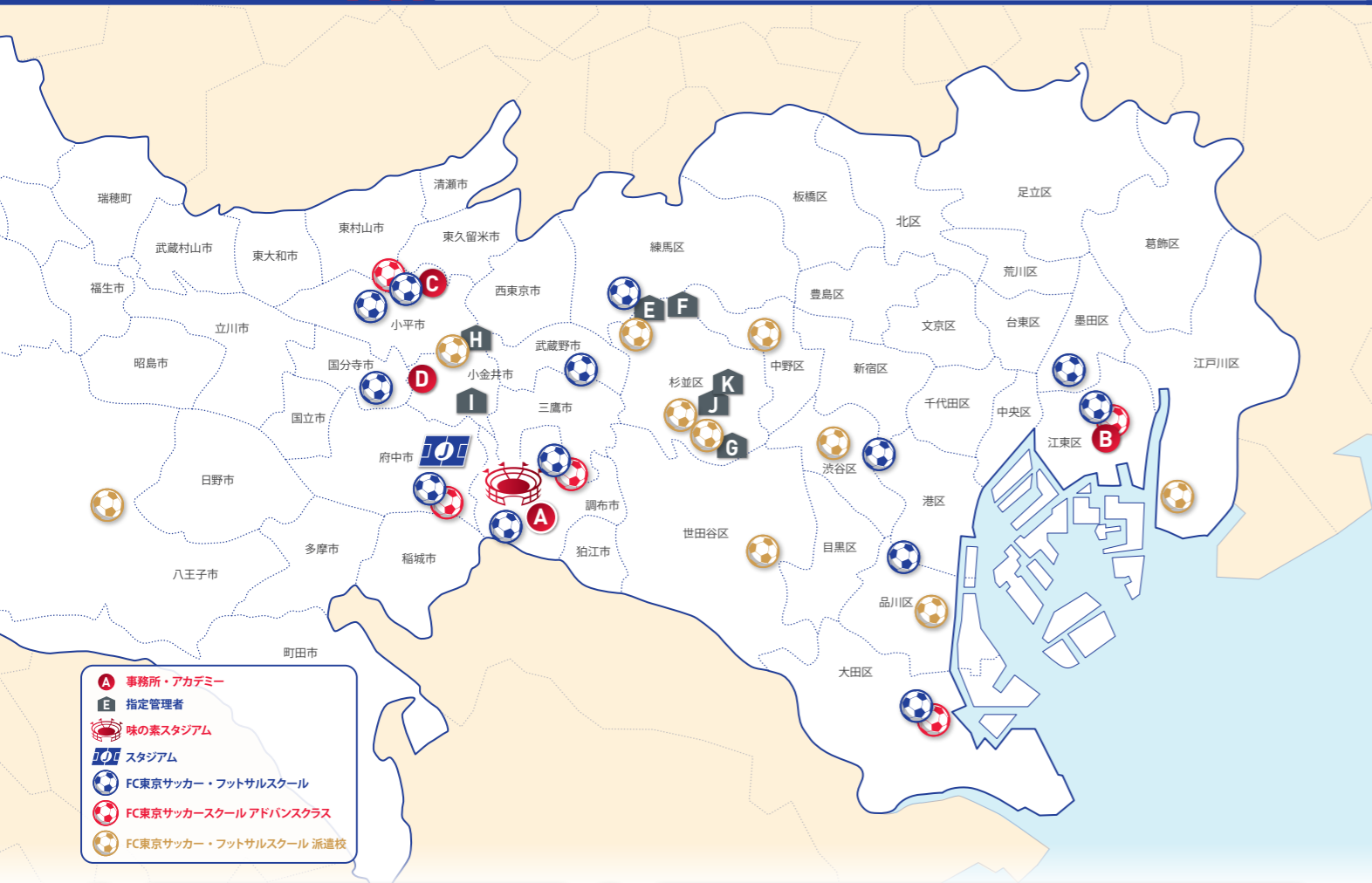
味スタに戻ってきた「声援」



来場者数推移



TOPICS
・4月6日(水)のホームゲームでは2020年2月のAFCチャンピオンズリーグ以来約2年ぶりの100%収容で試合を開催しました。
・9月18日(日)国立競技場での試合ではクラブ史上ホーム最多来場者数となる50,994人を達成。



- A** 事務所・アカデミー
- B** 指定管理者
- C** 味の素スタジアム
- D** スタジアム
- E** FC東京サッカー・フットサルスクール
- F** FC東京サッカースクールアドバンスクラス
- G** FC東京サッカー・フットサルスクール 派遣校

01 事務所・アカデミー

- A** [調布事務所]
東京都調布市下石原1-2-3 TSOビル
【TEL】042-444-2630
- B** [深川グランド]
東京都江東区猿江2-15-10
FC.TOKYO U-15 深川
- C** [小平グランド]
東京都小平市大沼町3-14-1
東京ガス武蔵野苑内
FC.TOKYO U-18
- D** **FC.TOKYO U-15 むさし**

02 スタジアム

- [味の素スタジアム]**
調布市西町376-3
- [FC東京パーク府中]**
府中市宮町1-41-2
ミッテン府中屋上
【TEL】042-314-1380

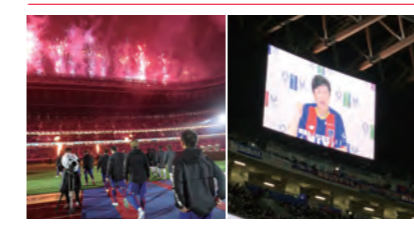
03 指定管理者

- E** TAC杉並区上井草スポーツセンター
杉並区上井草 3-34-1
【TEL】03-3390-5707
- F** TAC杉並区妙正寺体育館
杉並区清水3-20-12
【TEL】03-3399-4224
- G** TAC杉並区永福体育館
杉並区永福1-7-6
【TEL】03-3328-3146
- H** 小金井市総合体育館
小金井市関野町1-13-1
【TEL】042-386-2120
- I** 小金井市栗山公園健康運動センター
小金井市中町2-21-1
【TEL】042-382-1001
- J** 下高井戸運動場/区民集会所
杉並区下高井戸3-26-1
【TEL】03-5374-6191(運動場)
03-5374-6192(集会所)
- K** 松ノ木運動場
杉並区松ノ木1-3-22
【TEL】03-3311-4420



FC東京ではホームタウンである「東京都」および都内の各自治体や企業・団体と連携して、さまざまなホームタウン活動を行っています。活動の理念に賛同いただく企業・団体は「ホームタウンサポーター」として支援してくださっています。

：東京都との連携 スポーツ



新国立競技場での試合観戦を体験できる親子優待企画を実施し、約600名の方に非日常のスタジアムの雰囲気を楽しんでいただきました。スタジアムでは小池百合子都知事からのメッセージも放映されました。

：東京都との連携 人権



長年継続しているホームゲームでの人権啓発イベントや東日本大震災復興支援の福島物産販売のほか、「ヒューマンライツフェスタ」への参加により障がい者スポーツへの理解を深めていただくPRも実施しました。

：東京都との連携 環境



地球規模の気候変動への対策を自分たちができることから始めるために東京都が進めている、「H(減らす)・T(創る)・T(蓄める)」活動に賛同し、選手メッセージをスタジアムの大型映像機や都のサイネージ等で放映しています。

街のイベント参加・協力



コロナ禍の影響で中止となっていた街のイベントも少しずつ戻ってきて、キックターゲットやシューティングゴルフ、東京ドロンパふわふわなどのサッカーアートラクションを各地で楽しんでいただきました。

高齢者体操教室・フレイル予防講座



いつまでも元気で健康に過ごすための各自治体の取り組みに協力し、プロサッカークラブのノウハウを活かした高齢者のための体操教室や、健康診断受診やフレイル予防のきっかけづくりを行っています。

街路灯フラッグ掲出



都内各地の商店街で、合計約3,000本の青赤フラッグを掲げて応援してくれています。国立競技場での試合開催に合わせて新宿や渋谷の商店街にはひよっこり東京ドロンバージョンも登場しました!

：東京都との連携 文化



外国人や子どもにもわかりやすい「やさしい日本語」の普及啓発や、オリンピック・パラリンピックをきっかけとしたボランティアレガシーネットワークへの協力、都内の銭湯の支援など、ノベルティ配布や選手メッセージを通して幅広くPRしました。

：東京都との連携 福祉・健康



乳がん検診啓発のピンクリボン、児童虐待防止のオレンジリボン、外見からは障がいが見えない方が身に付けるヘルプマークなど、選手メッセージとノベルティ配布により認知が高まりました。

自治体表敬訪問



シーズン終了後の報告として、クラブを応援してくださっている自治体の首長を選手たちが訪問し、日ごろの支援への感謝と来季への意気込みを伝えました。

「あおあかドリル」制作・配布



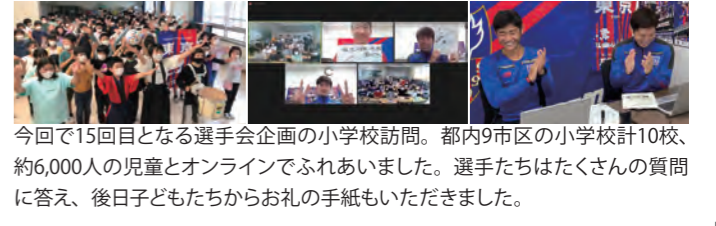
子どもたちが楽しみながら身体を動かすための学校教材を今年も企画・制作し、府中市をはじめとする株主6市と杉並区の全公立小学校のほか、世田谷区、渋谷区などの小学1年生約16,000名に配布しました。

産業振興・商店街連携



地域のお店を応援する商工会や商店街のプロモーションやキャンペーンに協力し、観戦チケットや青赤グッズのプレゼント企画などを通してホームタウン全体の活性化に取り組んでいます。

選手会オンライン小学校訪問



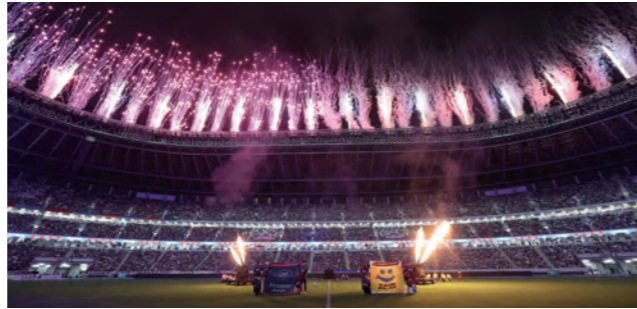
今回で15回目となる選手会企画の小学校訪問。都内9市区の小学校計10校、約6,000人の児童とオンラインでふれあいました。選手たちはたくさんの質問に答え、後日子どもたちからお礼の手紙もいただきました。

青赤パーク



2022シーズンでは、試合のチケットを持ってなくても、誰でも参加ができる楽しいイベントや催しを多数実施しました。
巨大ステージでのアーティストのパフォーマンスが楽しめる「TOKYO MUSIC FESTIVAL」や大きなやぐらを設置した「青赤夏祭り」、子ども向け遊具が9種類以上楽しめる「KIDSカーニバル」など、多くの方々に喜んでいただけたイベントを実施しました。また、全国のスタグルが一度に楽しめる「ご当地スタジアムグルメ」やBEER FES、餃子フェス、激辛フェスなどの飲食をテーマにしたイベントのほか、パブルマシーンや芝生エリア、夏場のミストエリアなど、小さなお子様にも楽しんでいただける空間を創出しました。

国立での試合開催



4月29日(金祝)に改修後の「新国立競技場」で単独チームがJ1リーグを初開催。スタンド上層部に取り付けられた計24台のLEDムービングライトと、特殊効果花火による光煌めく盛大なイベント演出を実施しました。9月18日(日)には一層バージョンアップした演出としてスタジアム屋根上から、360度・約1500発の特殊効果花火を打ち上げ、計28台のムービングライトやレーザーによる照明の演出を実施しました。

F.C.TOKYO FAN COMMUNICATION DAY



シーズン終了後に、コロナ禍以降初めてとなる選手のサイン会を開催。1シーズン応援してくださったSOCIO・クラブサポートメンバーの3,000名を超える方にご来場いただきました。またワールドカップ出場直前の長友選手が登場し、シーズン終了のお礼とワールドカップに向けた熱い意気込みを伝え、FC東京での2022シーズンを締めくくりました。

青赤パークオンラインBefore/After The Match presented by めちゃコミック



3シーズン目となった青赤パークオンラインは今シーズンも株式会社アムタス様にご協賛いただき、豪華ゲストにお越しいただきながら試合を盛り上げました。また、初のパブリックビューイング形式での青赤パークオンラインも開催。2日間ともチケット完売と大盛況のイベントとなりました。



青赤ストリート開催



調布市や地域の各団体と『調布市×FC東京まちづくり実行委員会』を設立し、飛田給駅から味の素スタジアムまでの「スタジアム通り」を歩行者専用道路とした「青赤ストリート」を開催しました。当日は、キッチンカーの出店、ステージでの選手トークショーや調布市内団体によるチアダンスやよさこいの披露、障がい者スポーツ体験やパラアート展示、東京ドロンパふわふわなどで、たくさんの方が楽しんでいました。

NO PLANET, NO TOKYO開催



地球環境をテーマにした『NO PLANET, NO TOKYO』を開催。ワークショップやインクルーシブフットボール体験等の社会連携イベントの実施、10月8日(土)湘南ベルマーレ戦ではイベント名を掲げたTシャツ配布やクラブスポンサーによるSDGsの取り組みを紹介しました。



社会連携活動 FC東京ではさまざまな団体と連携して、社会課題・地域課題の解決に協力し、いっしょに取り組んでいます。

※その他の社会連携活動はP5、P10でも紹介しています。

FC東京選手会 復興支援活動



選手会有志による東日本震災の被災地訪問は2019年以来2回目。DREAM福島プロジェクトやJヴィレッジのご協力により、福島の小中学校を訪問し子どもたちとふれあつたあとは復興の現状を視察して実際に見聞し、自分たちにできることを考えるきっかけとなりました。



平和事業



調布市と株式会社渋谷不動産エージェントと連携し、次代を担う子どもたちに戦争の悲惨さや平和の大切さについて肌で学ぶ機会を設け、その成果を広く市民へ還元することを目指す「ピースメッセンジャージュニア」を実施しました。広島での活動を通じて学んだことや感じたことをメッセージボードや報告会で伝えました。



更生保護活動



2016年から実施している多摩少年院でサッカー教室を実施しました。また7月1日(金)の更生保護の日には八王子地区の保護司会の方々と八王子駅周辺にて啓蒙活動の実施や、座談会にて関係各所と更生保護に向けた連携について話し合いました。



オカダ・カズチカ選手来場



4月10日(日)浦和レッズ戦のスペシャルゲストとして、新日本プロレスIWGP世界ヘビー級王者オカダ・カズチカ選手にご来場いただきました。当日は、青赤パークで芸人のゆっぺいさん、石川直宏クラブコミュニケーターと一緒にトークショーを行った他、ゴール裏でのファン・サポーターへの挨拶、花束贈呈を行い会場を盛り上げていただきました。

堀米雄斗選手来場



9月3日(土)横浜F・マリノス戦のスペシャルゲストとして、スケートボード・男子ストリートの堀米雄斗選手にご来場いただきました。当日は、青赤パークでの石川直宏クラブコミュニケーターとのトークショーを行った他、スタジアム内でのスケートボードのデモンストレーションや、花束贈呈、堀米雄斗選手×FC東京コラボグッズの販売を行いました。

石川直宏CCの活動



2022シーズンも「クラブコミュニケーター」として、都内各地での講演や子どもたち向けのサッカー教室、地域イベントでのトークショー出演など数多くの活動に参加しました。クラブのPRだけでなく、参加された方々に伝わるメッセージを発信してくれています。

CCAゴミ拾い部



味スタや小平グランドのまわりはもちろん、渋谷や国立競技場周辺などの都心でも、地域の方々やスポンサー企業の社員のみならず、ボランティアスタッフなどたくさんの方々との連携した「ゴミ拾い」を実施しました。年間の活動のなかで、繋がりが広がりを生んでいます。



CCA農業体験



三鷹市や狛江市での野菜づくりを通じて、SDGsにもある「住み続けられるまちづくり」を推進しています。FC東京サッカースクール生にも農業を体験してもらうことで、野菜をつくる奥深さを噛みしめながら、収穫の喜びを感じてもらいました。



FC.TOKYO アカデミー出身選手

※2022シーズン在籍選手



三田 啓貴 波多野 豪 品田 愛斗 蓮川 壮大 岡崎 慎 安部 柊斗 寺山 翼
 岡庭 愁人 平川 怜 梶浦 勇輝 安田 虎士朗 木村 誠二 バンゲナーガンデ佳史扶

年代別日本代表



U-19 熊田 直紀
 U-18 土肥 幹太 東 廉太
 U-17 小林 将天 岡崎 大智
 U-16 後藤 亘
 U-16 佐藤 龍之介 永野 修郎 佐々木 将英
 エリートプログラムU-14 田中 遥大 新堀 恵太 京増 倫泰
 エリートプログラムU-13 伊藤 海成 佐藤 蒼起 城 秀人

FC.TOKYO U-18



- 高円宮杯 JFA U-18サッカープレミアリーグ 2022 EAST 5位
- 高円宮杯 JFA U-18サッカーリーグ2022東京1部 3位
- 第46回日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会 ベスト16

FC.TOKYO U-15



- FC.TOKYO U-15 深川
- 2022年度関東ユース(U-15)サッカーリーグ1部 1位 ※初優勝
 - 2022年度関東ユース(U-13)サッカーリーグ1部Aリーグ 4位
 - 第37回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会 ベスト16
 - 高円宮杯 JFA 第34回全日本U-15サッカー選手権大会 ベスト32



- FC.TOKYO U-15 むさし
- 2022年度関東ユース(U-15)サッカーリーグ1部 3位
 - 2022年度関東ユース(U-13)サッカーリーグ1部Aリーグ 1位
 - 第37回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会 ベスト16
 - 高円宮杯 JFA 第34回全日本U-15サッカー選手権大会 ベスト32

サッカー・フットサルスクール

都内23箇所(スタッフ派遣校10校を含む)で行われている「サッカー・フットサルスクール」には、約4,000名の子どもたちが在籍しています。個人の技術・戦術面でのレベルアップはもちろん、あ・お・あ・か(挨拶・思いやり・諦めない・感謝)を言葉に、自ら考え取り組む力や仲間と協力する力も育みます。



サッカー・フットサルを通じてスポーツの楽しさを伝え、老若男女問わず気軽にスポーツを楽しめる環境づくりに寄与しています。各地域の行政・学校や団体とも連携・協力を図り、幅広い活動を行いました。

サッカーフェスティバル・サッカークリニック

東京ガス株式会社、株式会社大林組、株式会社ジークにご協賛いただき各種サッカーフェスティバルやサッカークリニックを開催しました。今年度も感染症対策を十分に講じた上で普及部コーチが学校・園を訪問し、サッカーの楽しさを伝えるだけでなく、自分で考え行動できるような働きかけをしています。子どもたちの自立心や身体を動かすことの喜びに触れることのできる機会を提供しています。

スマイルキャラバン・キッズ巡回

教育委員会と連携した「スマイルキャラバン」・東京都サッカー協会と連携した「キッズ巡回」・FC東京独自の「巡回サッカー教室」では、感染症対策を十分に講じた上で普及部コーチが学校・園を訪問し、サッカーの楽しさを伝えるだけでなく、自分で考え行動できるような働きかけをしています。子どもたちの自立心や成長が感じられる貴重な体験授業です。

あおあかドリル活用授業

学習指導要領に沿って子どもたちが楽しみながら身体を動かすことをコンセプトに制作した「あおあかドリル」をもとに、普及部コーチが小学校を訪問し体験授業を行いました。教育委員会と連携して教員向け活用研修も開催し、「あおあかドリル」をきっかけに子どもたちが運動に親しむ機会が増えるような取り組みを続けています。

あおぞらサッカー・クリニック

一人でも多くの子どもたちがサッカーを通して楽しく元気に育ってもらえるように、知的障がいのある子どもたちを対象にサッカー教室や「あおぞらサッカー」を開催しました。これまで調布市にて実施してきた毎月1回の「あおぞらサッカー・クリニック」も継続し、感染症対策へも配慮しながら継続的・定期的な活動を行なっています。

女の子・女性向けのサッカー教室

女の子・女性が、サッカーやフットサルを気軽に始めることのできる場として「なでこひろば」や「女性限定サッカー・フットサル教室」を開催しており、他クラブとの「交流会」は輪の広がりを感じられる時間となりました。またスクールにはガールズ・レディースクラスを設けており、楽しみながらプレーを続けていける環境づくりも大切にしています。

おとなのサッカー・フットサル教室

大人を対象とした「おとなのサッカー・フットサル教室」は、「観るスポーツ」としてだけでなく実際にプレーをすることで、サッカーやフットサルへの理解をより深めてもらい、「するスポーツ」の楽しさを感じてもらえる活動です。今年度も参加者の皆さんに感染症対策へご協力いただき、年齢や性別を問わずたくさんの方との出会い・交流の場となりました。

指導者講習会・夢授業

指導者の皆さんや保護者の方を対象にした講習会や、子どもたちの夢や目標を考えてもらうきっかけとなるキャリア講話「夢授業」を、コロナ禍に配慮しオンライン形式も取り入れて開催しました。子どもたち自身や周りの大人にできることを見つめなおす機会として、子どもたちが安心していきいきと成長できるような環境づくりに寄与しています。

FC東京パーク府中

FC東京が運営するフットサル施設「FC東京パーク府中」。新型コロナウイルス感染症対策を整えながら、スクール活動をはじめ各種サッカー・フットサルイベント、土日祝日にはFC東京普及部コーチによる親子サッカーやスキルアップ教室などのワンデイイベントを実施し、老若男女たくさんの方々にご来場いただきました。

指定管理者

FC東京はTAC杉並区上井草スポーツセンター、TAC杉並区妙正寺体育館、TAC杉並区永福体育館、杉並区下高井戸運動場・区民集会所、杉並区松ノ木運動場、小金井市総合体育館、小金井市栗山公園健康運動センターの指定管理者として、各施設の管理・運営を行っています。協力企業として携わる、中野区立平和の森公園・キリンレモンスポーツセンターを含め、サッカー・フットサル・ビーチサッカーをはじめとした教室事業をより一層普及させ、職場体験や地域への講師派遣など、多様な形でみなさまとの交流を継続しながら、地域社会に貢献していきます。

味の素スタジアム



- 住所 東京都調布市西町376-3
- 電話番号 042-440-0555
- 収容人数 48,955人



「ECOパスプロジェクト in 味スタ」の実施

「帝人フロンティア株式会社」と味の素スタジアムでゴミ分別の啓発活動や使用済みペットボトルを回収し、リサイクル繊維でグッズを制作する「ECOパスプロジェクト in 味スタ」を実施しました。グッズは社会福祉法人東京コロニーにて加工・縫製されたエコバッグ。毎年楽しみにされている方が多く、全て完売いたしました。



ホームタウンデー



各自治体がそれぞれ独自の企画でシティプロモーションを実施する機会を設け、府中市の特産品販売や三鷹市の阿波踊り、調布市のブラインドサッカー体験、さらにFC東京と自治体のコラボノベルティの配布など、各試合で来場者に楽しんでもらいながら、ホームタウンのPRを実施しました。

マッチイベント

9月3日(土)横浜F・マリノス戦の『びあ Day』では、Jリーグ初となる光の特殊効果演出「FreFlow® with びあ」を実施!お客様の手首につけたLEDライトを無線で一斉制御し、スタジアム全体で光と音による演出の一体感を創出しました。



赤い羽根共同募金



今年も東京都共同募金会および調布市社会福祉協議会と連携して「赤い羽根共同募金の募金活動」を実施しました。恒例のコラボピンバッジは1,300個が完売したほか、両チームのファン・サポーターのみなさんが募金に協力して当日限定の「青赤の羽根」をつけて応援していました。

ウクライナ避難者招待



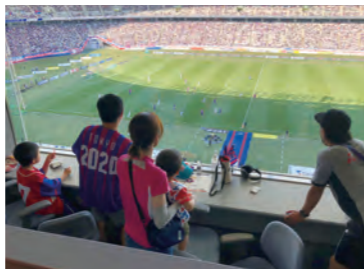
東京都からの要請を受け、戦禍によりウクライナから都内に避難されている方々の中で希望された方をホームゲームに招待し、サッカー観戦を楽しんでいただきました。日本での日々を少しでも楽しく充実したものにさせていただくと同時に、平和を願う想いにスポーツを通じて協力しています。

フードドライブ



11月5日(土)川崎フロンターレ戦にて、フードバンク調布と連携して、食料を必要としている方に届ける活動「フードドライブ」を初めて実施しました。たくさんのファン・サポーターの方々が食料を持ち寄ってください、FC東京ファミリーの温かさや支援の輪の大きさを感ずることができました。

センサリールーム



発達障がいや、聴覚・視覚など感覚過敏の症状がある方々にも安心して試合を楽しんでいただけるように、大きな音や強い光などの刺激が少なくなるように配慮した部屋(=センサリールーム)をご用意して、ご家族の方々と一緒に観戦していただきました。

2022シーズンはスタジアムでのパフォーマンスやファン・サポーターの方々との触れ合いをはじめ、試合以外でも様々なイベントへの参加を行いました。

「東京ドロムパ」

1998年10月1日、港区麻布狸穴町(まみあなちょう)で生まれる。六本木と東京タワーのほぼ真ん中に位置する狸穴町、いわゆる生粋の都会っ子である。遊び場はもちろん噴水の素敵な狸穴公園。知らぬ間にパツと現れ、ドロンといなくなることから、いつしか仲間から「東京ドロムパ」と呼ばれるようになった。東京タワーのそばに棲んでいるドロムパだから、「東京ドロムパ」というわけである。

狸の世界では誰もが認める東京ファンである。そんな彼にオフィシャルマスコット招聘のオファーが届き、チームマスコットとなった。



クラブスポンサー

CLUB SPONSOR



2022年 マッチイベント実施報告

開催日	対戦相手	イベント名
5月8日(日)	サガン鳥栖戦	New Balance Day
5月21日(土)	柏レイソル戦	明治安田生命 Day
5月29日(日)	鹿島アントラーズ戦	大矢運送 Day
7月2日(土)	アビスパ福岡戦	AIDEM DAY
7月17日(日)	ジュビロ磐田戦	三菱電機 Day
8月7日(日)	清水エスパルス戦	京王電鉄 DAY
9月3日(土)	横浜F・マリノス戦	びあ Day
9月18日(日)	京都サンガF.C.戦	きらぼし銀行 Day
10月12日(水)	セレッソ大阪戦	Teddy Bear Day
11月5日(土)	川崎フロンターレ戦	ジーク Day
ルヴァンカップグループステージ		nishikawa Day